



## 8月のコラム ～体感して初めてわかること～

「涼を求めて熱帯タイへ」という記事の見出しに目が留まりました。えっ！？タイって高温多湿、日本の夏同様に蒸し暑くて過ごしにくいんじゃないの？

世界中が熱波に見舞われて、異常な暑さが続いています。観測史上最高気温を更新したという報道は珍しくなくなりました。体温を超える気温が続く中、年間を通じて気温 30 度前後の熱帯のリゾート地は、多少湿度が高くても涼しく感じるのだそうです。6～10 月の雨季は、スコールのあと気温が下がり、夜も 25 度くらいになると知ればなおさら。「常夏の避暑地」は熱波の副産物とありましたが、常識がどんどん変化していきますね。

この気温や湿度も自分で体感しなければわからないものの一つです。先月のコラムの旅行での話になりますが、ドバイでは、エアコンが効いた室内から外へ出たとたん一瞬でメガネが曇りました。そう、メガネをかけたままお風呂に入ってしまったときのあれです。気温も湿度も高いというのはこういうことなのですね。スペインでは、手を洗った後、ほとんどハンカチを使う必要がありませんでした。なぜって？パパッと手を払えばすぐ乾いてしまうから。日本の夏、手離せない汗拭きハンカチもあまり使わなかったような・・・照りつける太陽の日差しは、半端なくキツイのに汗をかかなかった？すぐ蒸発してた？ 夜は、エアコンなしでも大丈夫です。気温が高くて、太陽の光が入らない室内は涼しい。湿度が低いってこういうことなのね～。

上司が、若手社員に対面でのコミュニケーションの必要性を話したが「対面でないといけないことってありますか」と反論され、わかってもらえなかったという話を聞きました。資料はクラウド上で共有できているし、必要な情報交換は、オンライン会議で全て出来ますものね。作業をこなすという点において、対面での打合せや面談、雑談はなくても仕事はできると考えるのも無理はないかもしれません。

例えばスポーツ観戦、会場で観るより放送画面で見ていた方がよほど多くの情報を正確に得ることができます。でも、息使い、熱気、一体感などは生でないと感じることはできません。行ったことがない相手に話しても、実感としてわかってもらうことは困難です。職場でも然り。仕事上の経験が少ない若者にとって、そもそも知らない世界だとすれば、知る必要性すら感じていないでしょう。

でも、人の温かさ（身体も心も）に触れたことが全くない人はいません。ただ、認識できていないだけだと思います。見えないものを伝えることは難しいですが、人と人の生のつながりの中で育まれていく心の成長や仕事のやりがいを、対面交流が不必要と思っている部下にも、体得して欲しいなと思います。

2023.8月 水田かほる